

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員参加し、認知症を理解する事を目的とした学習会を開催し、BS法、KJ法を用いた理念作りを行った、地域に根付いたGHになるようにという思いを含めた理念になっている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は施設の役割、運営について理解し、定期ミーティング（月1回）において方針や取り組むべき目標を具体的に伝達している。毎日の申し送りの中でも職員同士確認している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	契約時に理念の説明をしている。理念を玄関に提示し、訪れた人全員が目にするようにしている。また、場合によっては、分かり易く説明をしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	行事を通して交流を持てる機会を作ったり、畑で取れた野菜を配ったり頂いたり、又、野菜作りのアドバイスをさせていただいたり徐々に広がってきており、関係が出来つつある。	○	職員は常に笑顔で心がけ、積極的に隣近所の人に声をかけるようにし、立ち寄って頂けるよう、お誘いしている。耕運機等、貸して頂けるお話もあるので、野菜作りを教えて頂きながら、交流を深めていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の老健の行事に参加して交流を図ったり市の主催のイベント等にも積極的に参加している。市役所や自治会から行事（音楽祭やお祭り）の情報を得て、外出したり、年間行事にそって近くの名所等に行っている。	○	自治会に加入し、地域活動（ゴミ拾い、児童の登下校時見守り等）にも積極的に参加して交流を図りたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p> <p>実施していない。</p>	○	利用者に対して対応の中で行っている工夫や生活の中での注意点等、高齢者等の暮らしに役立つことを話し合い、介護教室などを検討していきたい。
<b>3. 理念を实践するための制度の理解と活用</b>			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p> <p>定期ミーティング（月1回）や面接等で外部評価の意義や評価を伝え、具体的な改善方法をスタッフ全員で検討し、計画的に取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p> <p>運営推進会議の議事録を定期ミーティングでスタッフ全員に報告し、サービス向上の為に検討事案や要望等について話し合いをしている。</p>	○	
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p> <p>地位包括や市主催の研修会などにケアマネジャーが参加している。施設内での事故や苦情等の報告は直接担当者へ報告することを義務付けている。管理者が市の連絡会議に参加している。</p>	○	ケアマネ連絡会や市主催の研修会に参加しているが、今後も機会を増やし、積極的に地域包括や市と連携を図っていきたい。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p> <p>ケアマネジャーや開設者研修に参加し知識習得に努めている。同系列の定期的な勉強会にも入れ込み、参加している。伝達研修の開催が遅れている為スタッフ全員の学習まで至っていない。</p>	○	伝達研修の早期開催及び関連事業所開催の0JTを活用し、スタッフ全員の知識習得に努める。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p> <p>ケアマネジャー研修や開設者研修において知識習得に努め、職員が虐待防止についての内容をしっかりと認識し、ホーム一丸となって虐待が見過ごされることがないように防止に努めている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	家族会の結成を検討して行きたい
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	○	全職員、研修報告書を提出し、全職員に回覧している。今後はグループ会議において、伝達研修を活発に行っていきたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	一人一人に合わせたコミュニケーション技法を活用して入居者の伝えたい事、訴えたい事を理解出来る様努めている。また、声掛けは前方から視線を合わせたり、入居者のペースに合わせてじっくりと話を聞く姿勢を作っている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所申し込みの面接時から傾聴の姿勢に心がけている。家族の協力は必要不可欠なものであり、信頼関係が築ける様に積極的に働きかけている。担当を中心とし、窓口を作りながら家族の意見や要望をしっかりと受け止めて検討している。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談員や管理者が直接利用者本人、家族と面接し、場合によっては介護保険の申請、ケアマネジャーの紹介や他のサービスの紹介なども行なっている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	訪問や施設見学などにより、利用者本人と接する機会を持ちコミュニケーションを図ることに努め、性格や生活背景を考慮しアプローチ法を検討したうえで計画立て、その利用者にあったペースで徐々に慣れていただく様にしている。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として尊敬する気持ちを忘れず一人一人に接しており、本人の表情、言動を確認しながら同じ目線で行動を共にし、共感し、日々の生活の中で関係性を作っている。直ぐに出来るものではないので毎日徐々に関係性を深めていっている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>		
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>		
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>		
31	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>		
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人一人の生活リズム、生活背景、認知症発症後の状況を把握し接している。誘導や声掛けには入居者の意志を尊重し、本人のペースに合わせている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式シートパックを活用した情報収集とアセスメントを行い、普段の会話や日常の活動（畑仕事、調理、清掃、買い物、外出等）と意識的に行なっている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式シートパックを活用して職員全員が入居者の出来る事、できない事を見極めている。大作業、畑仕事、洗濯干し等の作業は一緒に行なうか見守る程度にし、出来た事で自身に繋げる様にしている。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式シートパックを活用した情報収集に努め、家族面接、カンファレンスにおいて意見交換し、アセスメントしてケアプランを作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況や状態の変化に応じて見直しをしている。その際は再度家族にカンファレンスを設け、説明をして同意を得ている。又、期間終了前にカンファレンスにて評価し、見直しを行なっている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者には分かり易く、なおかつ職員には、持ち運び便利な箱に保管し気付いた事、入居者の小さな行動等、いつでも記録できるようにしている。個人のファイルに保存し職員全員が状態を継続的に把握出来るようにして、ケアプランの見直しの際にも役立っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ターミナルケアでは家族の希望する面接時間や泊まりにも応じている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40 ○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	市の主催のイベント、消防署による火災訓練等に積極的に参加している。ボランティアを多く取り入れ、行事やアクティビティを活かせる様にしている。		
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他県や他市町村から入所された場合、家族やケアマネージャーと相談し事業所を変更している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入退所時は連絡、調整、文書での情報交換等や退所時前の訪問（面談）の受け入れも積極的に行なっている。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退居時には、相談員も介入し、ケアマネージャーや施設への情報提供をもとに連携をスムーズにして、入居者が安心して、移り住めるようにしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	新人研修では研修を行い、接遇や高齢者への対応を学ぶ機会を設けている。また、入職時は個人情報の取り扱いについて説明を受け、同意書も作成している。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	認知症ケアを学び、表情や言動から一人一人に合わせた関わりに心がけ、入居者が伝えたい事、訴えたい事の理解に努めている。また、自己決定を促し、自立支援に向けたケアプラン作成と実践に努めている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人一人の生活リズムや馴染みを理解し、意思確認を優先し、希望を尊重し、入居者のペースに合わせている。食事においても体調や状態に合わせて対応している。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	家族や入居者の希望を尊重し、家族が定期的に馴染みの美容院へ連れて行く入居者もいる。特に希望のない場合や家族の都合の付かない入居者は月に1度、訪問美容室を利用しており、シャンプー、パーマ、カット等、希望通りのおしゃれが出来ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		


項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理出来る方には、多少のお金を持ってもらっている。自動販売機でジュースを買うことが散歩後の楽しみの一つになっている。買い物に行った時には、お釣りが来るように大きなお金を払ってもらい、お金に触れる機会を多く設けている。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物の希望があれば個別に出掛けている。事前に計画を立てることで当日まで入居者が楽しみを持って、生活する事が出来ている。また、近くへの散歩等は、入居者の突然の希望であっても対応している。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出行事を計画し、筑波山、博物館、桜のお花見など、普段行けない所にも出掛けている。また、家族の協力を得てお盆やお彼岸の墓参り、法事等にも参加するなどの支援を受けている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や親戚とのコミュにケーションの一部として電話を利用している入居者もいる。その際は職員は席を外すようにしている。また、手紙、葉書を書かれた入居者とは、ポストまで一緒に出しに行っている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問を歓迎している事を具体的に家族や入居者の知人等に伝えている。また、家族が入居者の居室に宿泊できるように環境を整え、実際に宿泊もしている。訪問時間の制限も一切していない。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が身体拘束の内容をしっかりと把握しており、ホーム一丸となって身体拘束のないケアの実践に取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の外出希望を早めに察知し、職員と一緒に連れて行く。日中は中庭を開放し、いつでも外に出られる環境づくり、玄関から出ようとする意志を和らげている。入所時等出られない環境により混乱が強い場合などやむおえず鍵を掛ける時は家族に事情を説明し、理解を得ている。		
67 ○利用者の安全確認  職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	記録等の作業時も、入居者の動きが把握出来る様、食堂で行なっている。台所も食堂、廊下が確認できる位置に設置されている。常に職員同士声を掛け合い、入居者の所在を確認し見守りしやすい位置にいる事を徹底している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理  注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や洗剤は施錠出来る部屋で保管している。刃物も夜勤は、施錠できる倉庫に保管し、事故防止のため、十分な配慮をしている。		
69 ○事故防止のための取り組み  転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	リスク管理の研修や学習会に参加し、知識習得に努めている。事故報告により、全ての事故において、発生状況内容分析、今後の対策を記入し、全職員が把握できるようにしている。家族にも報告、相談を行なっている。また、ファイナルした事故報告書とヒヤリハットに関して、月に一度定例会議で、事例検討を行い再発防止に努めている。		
70 ○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応を職員全員が行なえるよう、定期的に勉強会の開催に取り組んでいる。		
71 ○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の火災訓練、また、施設内勉強会により、災害時の避難方法を職員全員が把握できる様に努めている。	○	防災訓練を行う際、近隣の方々にも参加をお願いし、災害時、協力を得られるよう、体制を整えていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	状態に応じて予測されるリスクの説明や、カンファレンスを開催し細めに家族と話し合いを持ち対応している。拘束や鍵掛けなどはせず見守りを重視しながら抑圧感のない暮らしが出来るよう支援している。	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	入居者の様子（顔色、表情、行動等）や、高齢者の体の仕組みを学習会等で理解し、職員全員が異常の早期発見が出来るよう取り組んでいる。不安や心配はその都度看護師に報告、相談をしている。変化やサイン、対応を簡潔に分かり易く個別の記録用や申し送り表に記入している。	
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	各入居者の薬情をファイルに綴じて、全職員が薬の内容、目的を把握できる様にしている。心身上変化が見られた時には家族、看護婦、医師に伝え、早期に対応出来る様にする。	
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	排便の無い日数を排泄表に書き込み、職員全員が把握し、水分補給や適度な運動を促すようにしている。食事面では食物繊維の多い食材、乳製品を食事に取り入れ、便秘予防も行なっている。	
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	自立している入居者は本人に任せる事が多いが、誘導準備等必要に応じて支援している。食後は一緒に歯磨きを促している。三日に一度入れ歯洗浄剤につけている。歯が弱く毎食歯磨きが必要の方にはヌケが無い様チェックもしている。必要に応じて歯科往診の依頼も出来る	
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	入居者の体調に合わせて水分、食事量等のチェック表を作成し、極端な偏りが無い様にしている。職員内にも栄養士がいるため、禁食や嫌いなものがあったとしても栄養面でバランス良い食事が取れるように指導を受けながら調理している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78 ○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	職員もインフルエンザの予防接種を行ったり、外出後の手洗い、うがいを一緒に行なう様支援している。研修会にも参加するなどして、知識の習得と予防、早期発見、対応が出来る様取り組んでいる。入居前に診療情報として感染症の有無についても検査する事の同意を家族より得ている。		
79 ○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	こまめに食材の買い物に出掛け、新鮮な食材を調理するようにしている。まな板やふきんなど調理のあとには必ず消毒を行なう様にし、食器なども週に1度消毒している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>			
(1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門扉やスロープ周囲に季節感のあるリースや花を飾るなど、普通の家庭の雰囲気を作り、親しみやすく、立ち寄りやすい工夫をしている。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	新しく近代的な物ではなく、お年寄りにとって親しみが持てる、馴染みやすい物を置いている。手作りのものや季節を感じられる草花を飾ったりして工夫している。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有である食堂と居間を独立させ、障子で仕切りをつける事で違った空間を作り、自由に居場所を選択できるようにしている。中庭にもベンチを授け、入居者が自由に居場所を選択できるよう配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者、家族に馴染みの物を使う事の大切さを説明し、理解して頂き、使い慣れた家具などを持ってきて頂ける様協力を得ている。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(午前、午後)で換気を行なっている。暖房と冷房設定のチェックをこまめに行ない、外気温との差も考慮しながら、衣服の調整をしている。各居室ごとにエアコンの調整を出来るようにリモコンを設置したり、本人の好みにも応じた対応をしている。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は全て手すりを備え付け、自由、安全に歩行できるようにしている。また、筋力低下や車椅子を使用する入居者でもコタツに入れるよう段差をつけた居間にしている		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	誤認や錯覚を引き起こさない様な壁紙を使用し、汚れは直ぐに清掃する等の配慮をしている。夜は窓にすがたが映らないよう電気を点ける前にカーテンを閉めている。自室やトイレの場所も分かるように工夫している。		
87 ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	入居者と一緒に作った物干し場や、畑を日々の活動で有効に利用している。中庭にも草花を植え、水巻や草取りを自由に出来るようにしている。月に1回、環境デーとして入居者と一緒に草取りや花うえ等、行なう日も設定している。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者の安全を確保しつつ抑圧感のない自由な暮らしを支援するために、普段から入居者やご家族との関係作りを大切にしています。入居者一人一人の人格を尊重し、支え合いながら自由に暮らせるよう支援しています。